

垣根を超える〈長崎大学と多様性 Vol.4〉(2021 年 10 月 6 日)

おはようございます。

長崎大学人、河野茂です。

山歩きしている時に、ときどき思わぬ人との出会いがあります。帽子を被り、リュックを背負った山歩きの格好ですから、大学の学長だと気付かない人がほとんどです。同年代の人もいますし、若い人もいます。ベテランもいますし、今日が初めてという人もいます。いろいろ話を聞いてみるのは、非常に勉強になります。感染症の研究をしていた頃に、他の分野の研究者からの話をよく聞いたことを思い出しました。同じ分野よりも分野の枠を超えた人の話が、大きなヒントになることも多かったような気がします。今回は、研究・社会連携・戦略企画担当理事の永安武教授に、『研究・社会連携と多様性』について、解説して頂きます。

『研究・社会連携と多様性』

永安 武（長崎大学研究・社会連携・戦略企画担当理事）

長崎大学は今後プラネタリーヘルスに貢献する大学として、地球規模の課題解決に取り組むことを宣言しており、その基盤となる研究として、卓越した実績を誇る熱帯医学・感染症、放射線医療科学分野の更なる充実に加えて、長崎県の地理的特性を活かした先端創薬や海洋エネルギー部門、新学術領域の創出などを今後、推進していくことになります。

昨今、県内において情報技術系、物流ロジスティクス系、医療系企業の研究開発拠点進出が相次いでおり、情報データ科学部を加えた 10 学部と 2 研究所を持つ総合大学として、企業のニーズに合った効果的な人材育成や共同研究の推進が求められています。そのためには研究・社会連携において多様なステークホルダーが集うプラットフォームが不可欠であり、その核として、2020 年 7 月に長崎県産業労働部、長崎県産業振興財団及び長崎大学研究開発推進機構の 3 者が包括連携協定を締結して長崎オープンイノベーション拠点を立ち上げました。

この拠点では、これまで長崎県が企業誘致、県内外企業のマッチング、新事業展開支援などの事業を通して構築してきた産業界とのネットワークを活用し、大学と県における人事交流、産学官連携コーディネイト業務の相互連携・協力が円滑に進むようになる一方、大学における URA（University Research Administrator）機能の強化にもつながり、長崎大学の持つ研究・技術シーズと企業ニーズとのマッチングによる共同研究の推進や事業化に結びつ

ける「橋渡し」業務の加速が期待されています。

さらに人材育成の観点からも企業ニーズに合った高度専門人材育成や共同研究ベースのインターンシップを円滑に実施できるようになり、雇用促進や新たな産業創出が期待できます。長崎大学では研究シーズ集のリニューアルや学術指導制度などを広く学内外にアピールし、研究の「見える化」を図っています。

拠点が目指すオープンイノベーションでは、「AI・IoT・ロボット」、「海洋」、「医工連携・ライフサイエンス」、「航空機産業」、「アントレプレナー・スタートアップ」の5つの主要領域を設定したうえで、長崎大学のアカデミアとしての英知を結集し、従来の枠組みにとらわれない産学官の有機的な連携を推進することが謳われています。長崎大学はこの長崎オープンイノベーション拠点を通じて、地元企業、県内進出企業、地元経済界、関連協議会、県内市町村、さらには県内外の他大学・高専等と連携し、産学官金が一体となった地域と地球規模の課題解決の実現に向けて、長崎大学の研究シーズを積極的に活用して新たなイノベーション創出に取り組んでいくことになります。

永安先生、ありがとうございました。

学部の領域、大学や行政の枠、研究分野の融合、様々な社会の垣根を超えた本学の取り組みが進むことを心より願っております。ご意見、ご感想お待ちしております。

長崎大学 学長 河野 茂